

# 地域医療学実習 レポート

学籍番号： 4314100498

氏名： 祐徳 美耀子

実習先： 中之島・諏訪之瀬島

実習期間： 平成31年4月19日～4月24日

## 1. 環境

### 〈中之島〉

面積：34.47 km<sup>2</sup>、周囲：31.80 km

東経：129度55分01秒、北緯：29度51分30秒

最高点：979.0m

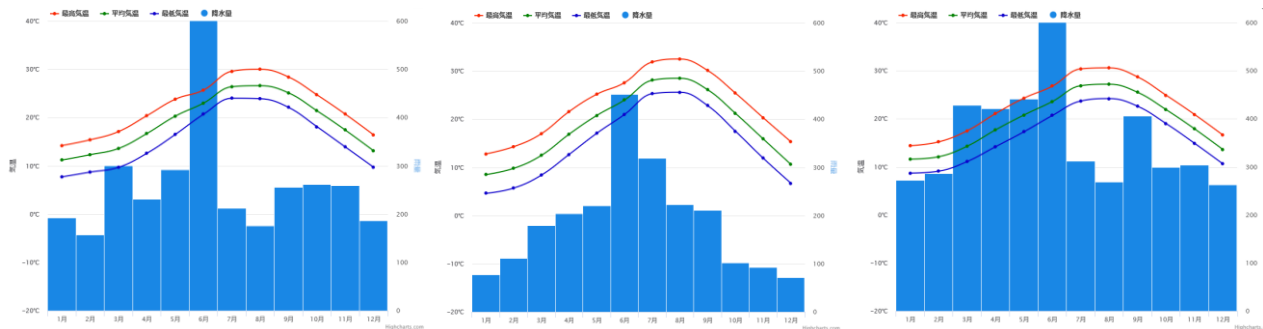
面積・人口共に十島村の中で最大の島であり、トカラ列島の中心的役割を担っている。

トカラ列島は全島琉球火山帯に属した火山島であり、中之島の中北部にはトカラ列島最高峰の御岳がそびえ、「トカラ富士」の愛称で親しまれている。御岳のふもとに広がる高原には鹿児島県天然記念物に指定されているトカラ馬が放牧されており、トカラ馬牧場の向かい側にはトカラ列島の歴史・文化・暮らしを紹介する歴史民俗資料館、カセグレン式60センチ反射望遠鏡を擁する中之島天文台が建っている。トカラ馬とは、西洋腫の影響を受けていない小型の在来種で、明治30年ごろに喜界島から宝島に移入され、戦後にトカラ馬とよばれるようになったといい、現在は中之島と宝島で飼育されている。また、『底なし沼』と称され恐れられている御池や、室町時代の海賊・与助の霊が宿ったといわれる与助岩など、神秘的な伝承の伝わる土地である。

特徴的な動植物には、マルバサツキ、スタジイ群落、ピロウ群生、トカラ馬、トカラヤギが挙げられ、ほかにも道端には島バナナと呼ばれるバナナの木が生え、実をつけている。

中之島の気候は、年平均気温18.9度・年降水量3236.5mmで、鹿児島市（年平均気温18.6度・年降水量2265.7度）と比較すると、温かく雨の多い土地であることが分かる。雨温図を調べたところ、特に梅雨時期である6月が突出していた。また、鹿児島市の他にも、種子島・屋久島・奄美大島（名瀬）との比較を行ったところ、中之島は「月に35日雨が降る」といわれる屋久島に次いで降水量が多いことが分かった。

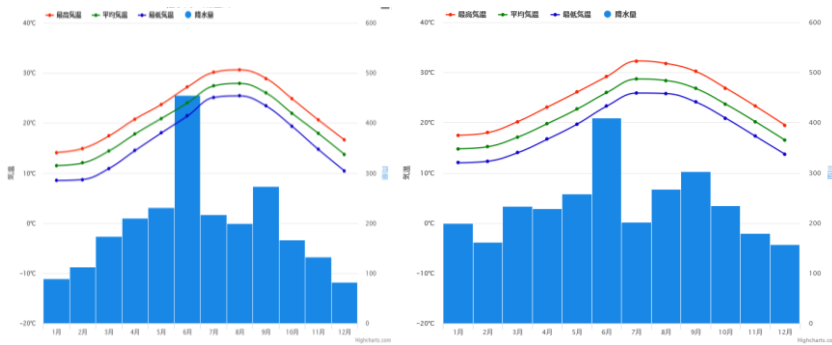
### 〈雨温図〉



中之島

鹿児島市

屋久島



種子島

奄美大島（名瀬）

中之島には、二つの大きな集落がある。北側の西集落と南側の東集落である。西集落は平家の落人、東集落は奄美からの移住者によってできた集落であるといわれている。

〈諏訪之瀬島〉

面積：27.66 km<sup>2</sup>、周囲：27.15 km  
 東経：129度 42分、北緯：29度 36分  
 最高点：799m

十島村の中で二番目に大きな島であり、御岳（799m）は活発に活動している活火山である。御岳は過去に幾度となく大噴火を繰り返し、文化10年（1813年）の大噴火でほとんどの人家は消滅し、全島民が避難したため、約70年間無人島となった。明治9年に奄美大島出身の藤井富伝らが入植して開拓し、現在の諏訪之瀬島の基盤が形成された。藤井富伝は明治37年（1876年）にこの島で生涯を終え、その墓も諏訪之瀬島に建てられている。

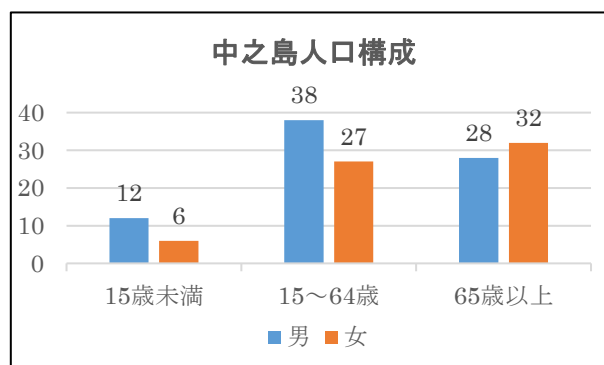
諏訪之瀬島では、トカラ列島でも類のないほどのマルバサツキの大群落を観察できる。海岸から山頂付近まで分布し、低地では5～6月、標高400mを超える高地では7～8月にかけて一面の花畑がみられる。他にも、ヤシャブシ群落（南限）、リュウキュウチク、トカラヤギなどが特徴的である。

かつてリゾートアイランドとして開発された名残で空港跡地に滑走路がのこっており、現在は緊急用のヘリポートとして使われている。また、フェリーとしま2の接岸する切石港の右手には乙姫伝説の洞窟や、集落から陸伝いには行くことができず、船でしか行けない諏訪之瀬島唯一の温泉『作地温泉』など、自然の作り出す名所も多く存在する。

2. 社会的背景

〈中之島〉

- 人口総数 143人
- 世帯総数 85世帯
- 人口構成



・産業

就業者総数 66人

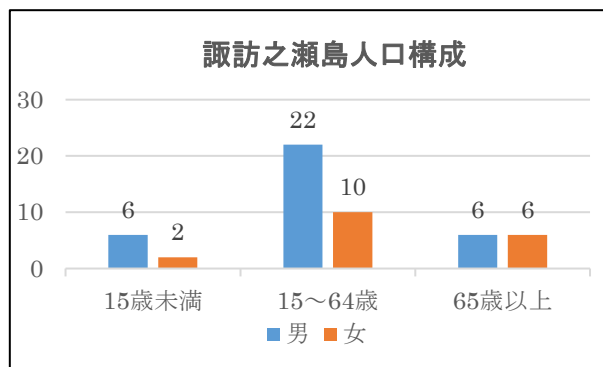
農業・林業（17）、漁業（6）、建設業（8）、電気・ガス・熱供給・水産業（4）、卸売業（5）、宿泊業・飲食サービス業（6）生活関連サービス業（6）、教育・学習支援業（11）、医療・福祉（1）、サービス業（4）、公務（3）

〈諏訪之瀬島〉

- ・人口総数 52人
- ・世帯総数 30世帯
- ・人口構成

・産業

就業者総数 34人



農業・林業（7）、漁業（2）、建設業（4）、電気・ガス・熱供給・水道業（3）、運送・郵便業（1）、卸売業（1）、宿泊業・飲食サービス（3）、生活関連サービス業（1）、教育・学習支援業（7）、医療・福祉（1）、公務（4）

3. 医療供給体制

トカラ列島の有人各島に診療所があり、看護師が1~2名常駐して住民の看護にあっており、中之島には医師も1名常駐し、十島村を巡回している。診療所で対応できない救急患者が発生した場合には、自衛隊もしくは県のドクターヘリにより鹿児島本土または奄美大島の病院へ搬送される。

参考文献

- ・鹿児島県十島村広報パンフレット
- ・tokara.jp
- ・toukei-labo.com
- ・weather.time-j.net

実習概要

日付	内容
4月19日	22時 フェリーとしま鹿児島港に集合 23時 出港
4月20日	6時 中之島到着 フェリーとしまを下船。こじか号をコミュニティセンターに止め、診療車運転手兼事務をしてくださる野口さんの運転するワゴン車に乗って海沿いの道路をはしり、宿泊先である『なごらん荘』へと向かった。朝食を済ませ、それぞれの部屋でしばらく休憩をと

った。私達学生3名は、『ソテツの間』に泊まることになった。

#### 8～9時 準備

コミュニティセンターにポータブルのユニットを一台セットし、こじか号に積んであったケースの中身を配置したり、受付・会計を行うスペースを作ったりして会場設営を行った。



#### 9時～12時 14時～17時 診療

主にこじか号で小児の、コミュニティセンターのユニットで成人の診療を行った。適宜移動して介助・見学をした。

成人：

##### 〈B・C型肝炎感染の方〉

9時の診療予約の高齢の女性で、早い時間からコミュニティセンターで受け付けを済ませておられた。問診票には感染症の既往歴の記入はなかったが、看護師さんからの診療所のカルテの情報により発覚した。これまでの歯科診療の時には認識されていなかったため、非感染者と同じように診療していたようであるが、幸いに悪影響は確認されていない。既往歴の訊き方、特に心臓・肝臓・高血圧・糖尿病・血液疾患については注意し、B・C型肝炎の既往について伏せたり、言及すると気分を害されたりすることもあるため、言葉のかけ方には配慮が必要である。

##### 〈義歯調整〉

高齢の男性で、左側臼歯部の部分床義歯が下顎前歯部舌側に当たって痛いことを主訴としていた。義歯は半年前に新製したという。口腔内診査を行ったところ、顎堤吸収が進行中で同部の床下に間隙を生じ、義歯床が沈下してリングバーが浮き上がることにより下顎前歯部舌側に食い込む、という現象が起きていることが分かった。

処置は、まず義歯を所定の位置に収めた状態で咬合圧をかけずにフィットチェッカーで床下間隙を埋めた。その状態で咬合調整を行い、フィットチェッカーが介在した状態で咬合を回復し、フィットチェッカーの厚みの分のリベースを行った。

##### 〈左下8埋伏・エックス線写真撮影〉

6歳と2歳の子どもの母親で、子供たちと共に来ていた。検診を行い、左下智歯が埋伏しており、コミュニティセンターでポータブルのエックス線撮影装置を用いて撮影し、こじか号のコンピューターで確認した画像をスマートフォンで撮影し、コミュニティセンターのチェアサイドでスマホの画面を患者に見せながら説明を行った。この日は、抜歯後の腫脹や疼痛の発現が予想されるため抜歯を行わず、鹿児島本土に行く機会を利用して歯科医院を受診することを勧めた。最後にクリーニングを行った。

小児：

\*学校歯科検診の実施が主な目的であった。診療日が休日であったため、各家庭で来場し検診を受診していた。

〈4歳、2歳、1歳の兄弟〉

4歳の子は準備センターに通っている（島に幼稚園はない）。3人とも検診を行い、4歳と1歳の子は、検診後にクリーニング、フッ素塗布を行った。

2歳の子は、左上乳中切歯と他1本がC<sub>3</sub>、全顎的にC<sub>0</sub>であった。臼歯部は比較的きれいで、左上乳中切歯は外傷により欠けた後、サホライド塗布を行ったが、次第に齲蝕が広がってきていた。治療を嫌がって暴れるため、抑制下で左上乳中切歯の感染根管治療を行った。残りの1本の感染根管治療は、翌日に行うこととなった。

〈6歳、2歳の姉弟〉

2歳の弟は、左下第一乳臼歯に初期齲蝕がみつかったが、歯根未完成なため処置を行うことができず、サホライド塗布を行うにとどめた。

6歳の姉は、学校健診を行い、顎関節・咬合・歯肉・歯垢の状態を0～2の3段階で評価した。問題はなく、そのままシーラント、クリーニングとフッ素塗布で終了した。シーラントは2本処置し、ラバーダムを装着するところから自験させていただいた。

12時～14時 昼休み

機械の電源を落として、簡単に片付けをしたあと宿へ戻り、昼食の弁当を食べた。午後の診療までの間、宿の前の海岸の潮だまりに下りて遊んだ。ちいさなハゼや、南国風の鮮やかな緑の小魚、ヤドカリ、多肉植物のような感触の海藻などがみられ、海風も吹いてとても気持ち良かった。

17時～ 片付け

次の日も診療があるため、排水を流し機械の電源を落とす程度で片づけを終了した。

19時 夕食

ヘルシーなおかずが何品もついてくる豪華な和食で、全部食べ切ったが満腹になった。食後に、歩いて海沿いの温泉へ向かった。目当ての温泉に営業終了の看板でいて他に入れる温泉がないかもしれず、一時はお風呂を断念しなければならぬかと思っただけ、なんとかお風呂にたどり着くことができた。

温泉のあとは、はなれで南先生、野口さん、相良さんとお酒を飲みながら1日の出来事を語り合った。

23時頃 就寝

4月21日	<p>6時半 起床 7時 朝食 8時50分 診療準備</p> <p>9時～12時 14時～17時 診療 午前中：予約の患者さんおよび学校検診 午後：予約の患者さんに加え、午前の患者さんで処置のある人の診療</p> <p>成人： 〈検診〉 中年の女性。咬合痛があるという。デンタルIQが高く、口腔内はとても清潔に保たれていた。視診では特に異常が見られず、デンタルエックス線写真を撮影したが、異常は認められなかった。左側臼歯部のメタルクラウンの咬合面がつるつるに咬耗して面接触になっていたため、上顎左側臼歯部に指をあてた状態で側方運動をしてもらい、均等に側方滑走の接触が行われているかを指の感覚で確認したが、明らかな早期接触などは認めなかった。 多少神経質な性格の様子で、歯を磨きすぎて歯頸部に摩耗もみられたため、少し肩の力を抜いて歯磨きをするように、と指導されていた。</p> <p>〈義歯調整・増歯〉 高齢の女性。現在は鹿児島市の紫原に住んでいるが、生まれ育った中之島にも家があり、数カ月おきに島に帰ってきて畑仕事などをして過ごしているという。今回は2カ月ほど滞在しているそう。義歯があたって痛がっており、フィットチェッカーを用いて義歯床後縁・舌側を3箇所調整した。フィットチェッカーの当たり具合をみる段階から研磨まで、自験をさせていただいた。また、支台歯がなくなっていたためその部分に増歯をおこなった。増歯の際には、ポータブルのサンドブラストも用いて処理していた。 昼食を食べて痛くなったらまた調整に来てもらうことにしていたが、夕方の最後に、やはり義歯があたって痛いとおしながら再度受診されたので、こじか号で再度調整した。</p> <p>〈検診〉 中年の女性で、歯周基本検査を実施したが口腔内に問題はなく、歯石除去とクリーニングで終了した。</p> <p>小児： 〈2歳男児〉 昨日の続きで、2本目の感染根管治療を行った。暴れることが分かっていたため、3人がかりで対応していた。</p>
-------	--



そのほかは、昨日来なかった子供たちが受診した。重度の齲蝕をもっている子はおらず、検診、PMTC、フッ素塗布、シーラント処置がほとんどだった。

〈小学生男児〉

兄弟がおり、母親は女の子には目をかけるけれど、男兄弟は放置気味であるという。抜歯の必要があったため、母親に許可を取らなければならなかったが、なかなか連絡が取れず時間がかかった。午後に連絡が付き、処置を行うことができた。

11時半～14時 昼休み

人が少なくなったため、少し早めの昼休みとなった。昼休みの時間を利用して、底なし沼、トカラ馬の牧場、歴史民俗資料館の見学、などに連れて行ってもらった。



17時 片付け

次の日は中之島を離れるため、コミュニティセンターを片付け、持ってきた道具も全て一旦こじか号に積み込んだ。

宿に戻り、夕食をいただいた後は温泉に行った。少しお酒を飲みながら、一日の反省会をし、就寝した。



4月22日 6時半 起床

7時 朝食

8時 中之島を出港

「ななしま」に乗り、諏訪之瀬島へ向かう。船酔いを心配していたが、海が凪いでいて大丈夫だった。デッキに座って景色を眺めていると40分程で到着した。島の看護師さんが出迎えてくださり、フェリーからバケツリレー方式で荷物を降ろしたあと車に乗って民宿「御岳」へ向かった。荷物を下ろしたあと、近くのコインランドリーで洗濯し、休憩をとった。



9時～10時半 準備

こじか号を持ってきていないため、コミュニティセンターにポータブルユニットを2つ設置した。ライトは床に置くタイプが一台しかないため、ひと組みは手にもって使う小さなライトで照らすことになった。

10時半～12時 14時～17時 診療

成人：

〈検診〉

看護師さんの歯周組織検査で自験させていただくことができた。WHO の CPI プローブを実際に使用したのは初めてだった。全体的に健康な状態であった。歯石除去とクリーニングをして終了した。

〈検診〉

男性の患者さんでは、別の同行学生が歯周組織検査の自験をさせていただいていた。

小児：学校検診

平日だったため、学校の先生が体操服姿の小中学生を 10 名ほどまとめて連れてきた。顎関節が痛むという中学生がいたが、特に問題はなさそうであった。皆口腔内をとても清潔に保っていて、クリーニング、フッ素塗布で終了した。

小学校高学年の男の子（4 人兄弟の長男）の左下第二乳臼歯の抜歯を行うこととなり、コミュニティセンターでデンタルエックス線撮影を行った。こじか号がないため、センターの台所で現像・定着を手動作業で行っていた。小さなシャーカッセンも用意され、現像したフィルムを観察していた。



17時～

簡易的に片づけを行い、夕食までに風呂を済ませた。夕食後、この日は疲れていたのですぐに眠った。

4月23日

6時 起床

7時 朝食

9時～12時 14時半～16時 診療

昨日で大部分の診療が終了していたので、患者さんはとても少なかった。

成人：

〈検診〉

女性の患者で、高血圧のため降圧薬を飲んでいるが、この日は飲み忘れていたため、診療所で飲んでもらった。薬による歯肉増殖がみられた。歯周基本検査、歯垢染出しと歯ブラシ指導、クリーニングを行った。





<p>4月24日</p>	<p>〈検診〉</p> <p>成人男性で、前歯の見た目の改善を希望して来られた。しばらく歯医者に行っておらず、口腔内清掃状態不良で、歯石も多く歯肉炎・歯周炎の進行が見られた。歯石除去中の出血が多量であった。歯石除去、クリーニングは行ったが、前歯の治療は継続した治療が必要となるためこの日は行わず、仕事で薩摩川内市に滞在することだったので、現地の歯科医院を受診するように紹介状を渡した。</p> <p>小児：</p> <p>学校検診は昨日で全て終わっており、3人の未就学児を残すのみとなっていた。母親と二人、または両親とともに全員が来場して検診を受けた。</p> <p>16時～片付け</p> <p>すべて片づけをして、こじか号に荷物を積み込んだ。</p> <p>夜は天気が悪く、雨が激しかったが、夕食には民宿でバーベキューをしてもらうことができた。たけのこ、とびこ、貝など海の幸・山の幸を溶岩板と網で炭火焼きして満腹になった。「悪魔のおにぎり」のなぞも解けた。その後、離れて飲み会があり、パッションフルーツに焼酎を注いだ「悪魔の焼酎」を飲んだ。「悪魔」はとてもおいしくて、いくらでも食べたり飲んだりできそうだった。今回の参加者全員と、民宿のご主人、おかみさんも一緒に、島での出来事を語り合った。</p> <p>0時頃 就寝</p> <p>6時半 起床</p> <p>7時に朝食をとり、出発まで南先生の運転で観光に連れて行っていただいた。御岳のご主人の牧場、空港跡地の滑走路、島の開墾者のお墓など、山道を通って色々なところに行った。空港では、野生のヤギの群れに遭遇した。</p> <p>9時20分 諏訪之瀬島を出港 フェリーとしまに乗り、鹿児島本土へ向かった。</p> <p>18時20分 鹿児島港に到着</p>
--------------	---



実際に巡回診療に参加して驚いたのは、島の人たちの口腔内の状態がとても綺麗に保たれていたことである。常時歯医者に通うことができないため、虫歯や歯周病が進んでいたり、義歯を上手く使うことができなかったりする人が多くいて、巡回診療ではそのような人達の治療がメインとなるのだろうと考えていたが、決してそうではなく、常に歯医者に行くことができないからこそ、本土の人以上にセルフケアに気を配り、鹿児島にのぼる時に市内の歯科医院で治療を受けたり、年二回の巡回診療時に検診を受ける、という生活スタイルで、口腔内の健康が維持されていることが分かった。また、衛生士さんによると、島の子供たちは検診でフッ素塗布を必ず行うため、エナメル質が強く虫歯になりにくいのだという。

医師や歯科医師はいないけれど、常駐している看護師さんが各島2人いて、諏訪之瀬島の看護師さんにお聞きした話では、珍しい病気を発症する人もいて、新しい病気の症状を訴える人がいる度に、その病気について調べて看護にあたるそうだ。看護師さん達の存在も島の人々の健康管理に大きな役割を果たしているのだと感じた。また、それぞれの看護師さんの歯科に対する興味の度合いに違いがあるようで、諏訪之瀬島の看護師さんは巡回歯科診療にとっても協力的で、今回の診療中も長時間診療所で島民の人達の検診の様子を見守っていらっしまった。中之島では、新しく赴任された看護師さんは協力的で、島民の人々のカルテの情報を伝えてくださったり、子供の家族に連絡を取ったりしてくださったりした。

今回の実習では、シーラント処置や義歯調整など、大学病院での実習では診療の一部しか自験させてもらえないようなことも、全ての過程を通して自分で手を動かして診療させてもらうこともできた。

そして、歯科衛生士さん、野口さん、先生方と島の人達との人間関係が深く構築されており、ただ単に医療を提供して帰ってくるというのではなく、互いに久しぶりに会った親戚のように親しく接している様子で、とても温かいものを感じた。特に、諏訪之瀬島の民宿のご夫婦との繋がりは格別で、朝昼晩の食事の時に交わす会話はまるで親戚の叔父叔母の家にいるかのようなようだった。

診療後の時間だけでなく、診療前や昼休みにも周囲の自然に触れる機会がたくさんあり、診療時間以外は常に環境を楽しんでいるような気分だった。中之島では海辺を、諏訪之瀬島では山を満喫した。毎日の食事も美味しくて、特に一日が終わった後にお酒とともにいただく夕食と、その時の皆さんとの語らいは最高の時間だった。

当初の予定では、中之島のみ短縮日程での参加であったが、南先生のお言葉に甘えて全日程参加させてもらえて本当に良かったと思う。また中之島・諏訪之瀬島やトカラの他の島々にも巡回診療に行きたいと思ったし、診療でなくとも、純粹にまた島の空気を吸いに行きたい。